

そ の 他

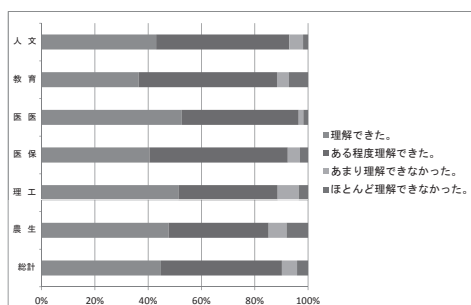
## 平成25年度後期 21世紀教育に関する学生アンケート（1年生のみ）

21世紀教育に関するアンケートを、特に履修ガイダンス及び基礎ゼミナールについて、平成24年度に引き続いて実施しました。このアンケート結果の蓄積したデータを分析し、履修ガイダンスの方法及び基礎ゼミナールの実施内容を検討する指針になればと考えております。

### ○1年生

設問2：後期のガイダンスの説明で、21世紀教育の履修のしかたが理解できたか？  
（回答数989）

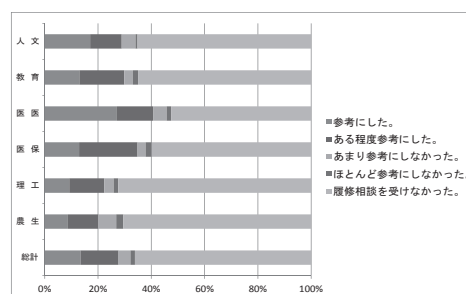
- ・理解できた（44.8%）
- ・ある程度理解できた（45.4%）
- ・あまり理解できなかった（5.7%）
- ・ほとんど理解できなかった（4.1%）



全体の90%が「理解できた」「ある程度理解できた」と回答しており、「あまり」「ほとんど」理解できなかったと回答した学生が昨年度（9.7%）とほぼ同様の結果となるなど、引き続きガイダンスの説明による理解が得られていることがわかります。

設問3：履修相談で受けた指導を履修にあたって参考にしたか？（回答数992）

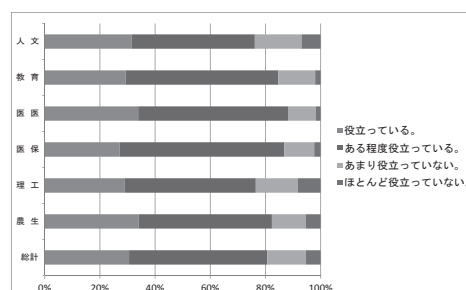
- ・参考にした（13.4%）
- ・ある程度参考にした（14.3%）
- ・あまり参考にしなかった（4.4%）
- ・ほとんど参考にしなかった（1.7%）
- ・履修相談を受けなかった（66.1%）



後期の履修相談を受けた学生は全体の27.7%と前期（72%）に比べ半分以下でしたが、後期の履修相談を受けなかった学生は66.1%と前年の71.3%からかなり減っており、履修科目決定に不安を持つ学生への相談窓口として後期の履修相談が有効であることがわかります。利用率では医学部医学科・医学部保健学科が高く、理工学部が低いという結果が見られました。

設問4：「基礎ゼミナール」は、大学の学習や生活になじむために役立ったか？（回答数962）

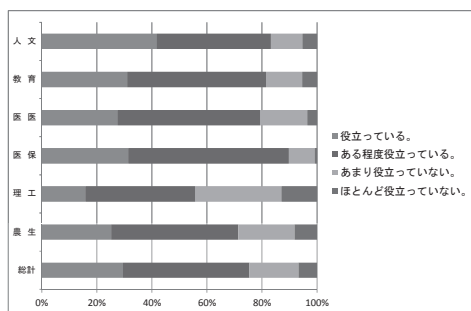
- ・役立っている（30.6%）
- ・ある程度役立っている（50.1%）
- ・あまり役立っていない（14.0%）
- ・ほとんど役立っていない（5.3%）



「ある程度」以上役立っていると回答した学生の割合は、医学部医学科で88.1%と最も高い一方、人文学部では最も低い76.1%とばらつきがみられましたが、全体の合計では80.7%の学生が「ある程度」以上役立っていると回答しており、21世紀教育の中で基礎ゼミナールの重要性が引き続きうかがえます。

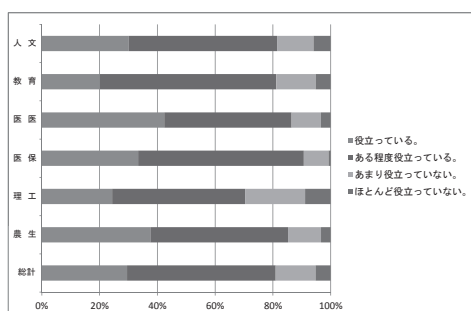
**設問5：「基礎ゼミナール」は、レポートなどの文書作成に役立っているか？（回答数977）**

- ・役立っている (29.5%)
- ・ある程度役立っている (46.0%)
- ・あまり役立っていない (17.8%)
- ・ほとんど役立っていない (6.8%)



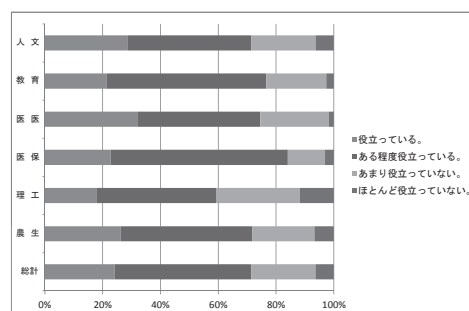
**設問6：「基礎ゼミナール」は、口頭発表などに役立っているか？（回答数986）**

- ・役立っている (29.5%)
- ・ある程度役立っている (51.4%)
- ・あまり役立っていない (13.8%)
- ・ほとんど役立っていない (5.3%)



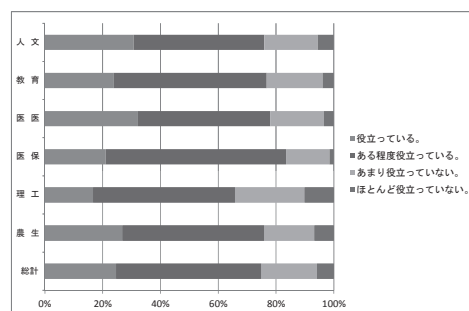
**設問7：「基礎ゼミナール」は、資料を探す際に役立っているか？（回答数992）**

- ・役立っている (24.1%)
- ・ある程度役立っている (47.3%)
- ・あまり役立っていない (22.3%)
- ・ほとんど役立っていない (6.4%)



**設問8：「基礎ゼミナール」は、物事を批判的に検討し、新しい課題を探すことに役立っているか？（回答数994）**

- ・役立っている (24.6%)
- ・ある程度役立っている (50.2%)
- ・あまり役立っていない (19.3%)
- ・ほとんど役立っていない (5.8%)



基礎ゼミナールは、大学における自立的・主体的学習への順応を図るため、資料の検索や収集方法を理解し、正しい文章表現と説得力のあるプレゼンテーションの方法を学び、議論を深める討論の仕方を習得することを目的とした導入科目として位置付けられています。設問5・設問6は、文章作成、口頭発表に関する設問ですが、これに対して「ある程度」以上役立っていると回答した割合は昨年と同様に75～80%と高く、基礎ゼミナールが、大学で学ぶための基礎的な手法を

学ぶ導入科目としての役割を果たしていると判断できます。また設問7の資料検索において、「役にたっていない」と回答した学生が28.7%と、昨年度の38.7%より10%も減り、効果が表れていますが、理工学部においては、約40%と他学部 비해、高い数字が見られています。各学部のそれぞれの事情や必要性に応じた展開方法を引き続き検討する必要があると思われます。

**設問9：履修を希望したが、時間割の関係で受講できなかった科目があれば記入してください。**

人文学部と理工学部で多く、医学部医学科で少ないようです。受講できなかった科目の上位はいずれもテーマ科目の「食育概論（44名）」「最新医学の現状（36名）」「芸術の世界（25名）」「東日本大震災復興論（24名）」です。

	人文学部	教育学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	理工学部	農学生命 科学部	計
人 数	90	34	5	32	62	41	264
科目数	41	19	6	12	28	29	135

**設問10：21世紀教育科目の成績評価について感じたことがあれば自由に記入してください。**

**(回答数82)**

例年通り、成績評価に関する要望や批判の意見が見られました。その多くは「成績評価の基準がわからない」「同じ科目でも担当教員によって評価基準が違う」「点数を開示してほしい」といった内容であり、改善の検討が必要と思われます。また「出席をもっと評価してほしい」という意見も多く寄せられました。

**設問11：21世紀教育の全体を通じて、特に感じたこと、考えたこと、提案したいことがあれば、自由に記入してください。(回答数131)**

「時間割に関すること」と「履修制限に関すること」の意見が数多く寄せられました。「時間割に関すること」では、受講したい科目が同一曜日・時間帯に集中している、テーマ科目が特定の曜日に重なっているなど、時間割の見直しを求める意見が見られました。

「履修制限に関すること」では、抽選や履修制限になる科目が多いことや抽選漏れになったことへの不満、講義数をもっと増やしてほしいなどの意見が見られました。その他、履修方法がわかりづらい、答案は返却してほしいなどの意見や要望もありましたが、一方でさまざまな学問に興味を持てた、新たな発見を得る事ができたなどの前向きな意見も見られました。

